

開発・設計

メッセージ



品質・技術本部長
専務取締役 斎藤 和幸

技術開発部門では、「一歩先を見据えた開発」を常に意識し活動を進めています。

- ・環境負荷物質の規制動向を捉えながらの材料開発
- ・省エネ、CO₂削減に寄与する製品の開発による環境への貢献
- ・生産活動で使用するエネルギー、化学物質、発生する廃棄物、熱、騒音等をミニマムにするための製品設計、生産設備・工程設計、作業の事前検討の実施
- ・予測される環境変化に対応できる研究開発の推進

以上の基本方針のもと、今後も着実にスピードをもって活動を進めます。

環境に寄与する製品開発・製法開発

1. 環境負荷物質を使用しない材料開発

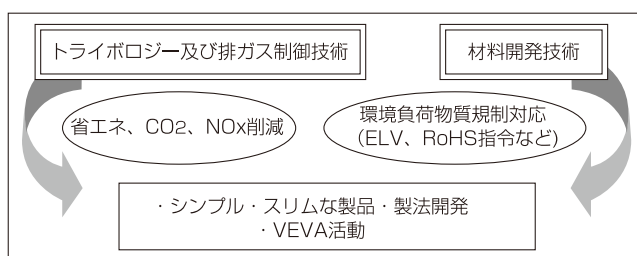
- ・欧州ELV、RoHS指令などの規制対象物質非含有

2. 省エネ、CO₂、NO_x削減に寄与する製品開発

- ・摩擦に関する技術（トライボロジー）技術を駆使したエネルギー損失の最小化に貢献
- ・中・大型トラックの排ガス再循環装置の大流量・精密制御技術適用によって大気汚染物質の低減に寄与

3. シンプル・スリムな製品及び製法開発

- ・エネルギー、廃棄物、不良をミニマムにするための製法開発
- ・VEVA活動により、機能を満足しつつ低コストな製品をお客様に届ける取り組みに力を入れています。



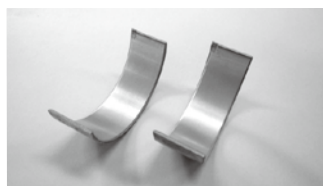
環境に配慮した技術の考え方

※欧州ELV (End of Life Vehicle)
※RoHS指令 (Restriction of Hazardous Substances)

取り組み事例

■ 環境にやさしい製品開発

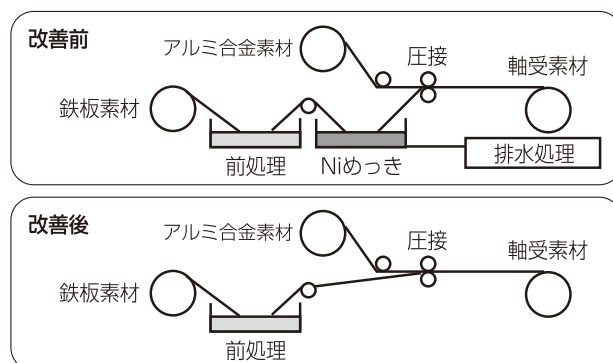
軸受には従来より鉛を含む合金が使用されており、いち早く環境負荷対応として鉛を含まない材料の開発を進めてまいりました。2008年度は鉛を含まないだけでなく、尚一層の性能向上材料RA540及びT300を開発、お客様へ提供できました。



環境負荷物質を使用していない
T300鉛フリー軸受

■ 環境にやさしい製法開発

ニッケルめっきを使用しない材料製法の開発に取り組み、実用化することができました。これにより、工程をなくすことによる省エネ、省資源化や、めっき排水処理場が必要なくなる等、多くの面でシンプル化を達成でき、大きな効果が得られました。



次年度へ向けた意気込み

急激な社会環境変化に対応するには、絶え間ない研究開発を怠ることはできません。特に省エネ、CO₂削減に寄与する製品の開発、充実が重要といえます。将来を見据え、研究、先行開発を強化し、より良い製品を生み出していきます。また、鉛使用規制対象の製品のみならず、鉛全廃をめざした材料開発を継続していきます。